



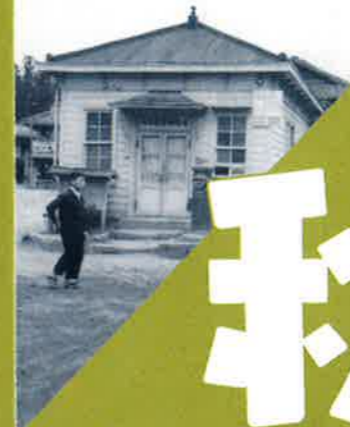
大正時代の温泉場の様子（東から撮影）
写真中央に㊦（マルカ）、奥に佐勘が見える

【秋保音頭と盆踊り】

昭和20年代半ば頃まではお盆になると、泉明寺の境内に櫓が組まれ、笛・太鼓の伴奏で「秋保音頭」を歌いながら、老若男女みんなで輪になって踊る光景が見られました。その後、会場は岩沼屋入口前・三叉路に移り、浴衣姿の温泉客らも加わり、仮装盆踊りなどで賑わいました(写真)。



盆踊りが中断した時期もありましたが、現在は秋保・里センターで開催される「秋保温泉夏祭り」で、秋保音頭の盆踊りが復活し、また様々な催しや出店、花火など、地元民をはじめ、温泉客など訪れるすべての人々に愛されているイベントとなっております。



秋保 いってみっぺ

てくてく温泉場



いってみっぺ 秋保 てくてく温泉場

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)
秋保市民センター(022-399-2316)

湯元地区の秋保温泉街
地元民は昔から元湯付近を
「温泉場」と呼んでいます。
「温泉場」の懐かしい写真を見ながら
タイムスリップした気持ちで散策してみては？

「温泉場」をてくてくと

称号を賜り、名を轟かせた秋保温泉。当時源泉は佐勘の前にあ
代になると源泉の周囲に岩沼屋・水戸屋の宿屋が増え、明治・
また。そして現在、年間100万人以上の訪問者が利用する温泉
れるなど、海外からも注目を浴びる温泉地となりつつあります。

掲載されている情報は、平成29年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.11

秋保温泉街の中心

古墳時代・欽明天皇の皮膚病を治したことから、「名取の御湯」の
り、佐藤家(佐勘)が湯守として温泉を守り続けてきました。江戸時
大正になると佐藤屋旅館や共同浴場ができ、利用者が増えてき
場として、2016年にはG7財務大臣中央銀行総裁会議が開催さ